

対タジキスタン草の根文化無償資金協力「空手道場整備計画」

日本から遠く離れたタジキスタンですが、日本の武道である空手の人気は大変高く、首都ドゥシャンベ市内だけでも500人近くの老若男女が空手を楽しんでいます。空手を習う子供達は、技術だけでなく武道としての礼儀作法まできちんと学んでおり、子供に空手を習わせることを希望する父兄も少なくありません。

一方でソ連邦からの独立後、内戦を経たタジキスタンの経済状態は大変厳しく、市内の空手道場も老朽化が進んでいる上、満足な練習器具も揃えられない状態が続いていました。

そこで、日本政府は平成24年度草の根文化無償資金協力案件として、市内空手道場を整備することを通じ、青少年の健全育成や地域コミュニティ開発を目的とした無償資金協力を実施しました。



整備された道場で稽古する子供達。老朽化した道場は修復され、より安全な練習環境が実現しました。



女性練習生の姿も。女性用ロッカーが整備され、より多くの女性が空手を習いやすくなりました。



道場には我が国政府による支援を示すサインボードが掲示されており、訪れる人に日本政府の協力が行われたことを示しています。



供与されたサンドバッグ。以前は老朽化した器具で怪我人が出ることもありましたが、現在は競技の安全性が大幅に増加しています。